

## 日本保健医療社会学会ニューズレター (No.105) 2017/7/3

## 目次

1. 第43回大会報告
2. 第44回大会告知
3. 総会報告
4. 園田賞報告
5. 第1回理事会報告
6. 看護・ケア研究部会報告
7. 渉外・国際交流活動報告
8. 編集後記

---

## 1. 第43回大会報告

第43回大会、去る5月20-25日に佛教大学二条キャンパスで開催され、192名の参加者を迎え盛会のうちに終了することができました。大勢の方々にお越しいただき、京都でこのような大会を開催できたことを深く感謝いたします。運営面では、近畿の会員の方々や医療社会学研究会の関係者や佛教大学の院生と学部生の諸氏にたいへんお世話になりました。また、大会ホームページや抄録集の作成は今回から学会の研究活動委員会の専権仕事となり、大会校はそのプログラムに合わせて運営する方式となり、おかげで大会校は主に大会直前と当日の大会運営に専念することができました。なお、大会校の判断で設けた託児室は利用者から重宝がられました。

大会テーマ「病／健康をめぐる Contestation」は、シンポジウム「病をめぐる Contestation」をはじめ、大会長講演の「健康と病理」や、今回、大会校の判断で昼休みに設置させていただいたランチョンセミナー「健康という幻想／病という至福／癒しという陥穽」や教育講演「病い研究のポリフォニー」にも、更に渉外・国際交流活動委員会(細田満和子先生)のお骨折りでお招きすることができた Mike Saks 先生による特別講演「The Medical Profession: Altruistic or Self-interested Threat to the Public」にもほどよく反映されていました。



(RTD④生涯研究・研究者のあり方)



(特別講演の Mike Saks 先生)

一般演題は、口演が28題、ポスターが11題(うち2題事前キャンセル)、RTDは7題(うちRTD①は英語セッションで参加者も多く好評でした)。大会は、講演者、RTD報告・話題提供者、司会者、一般演題報告者、並びにフロアのみなさまのおかげで、どの会場も医療社会学にとって有意義なお話と議論が展開されました。また、研究活動委員会(進藤雄三先生)からは、本学会の歴史についてのパネルを展示していただきました。大会校として各位に深く感謝申し上げます。

佛教大学田中典彦学長の挨拶で始まった懇親会(於大学食堂アムリタ)には 80 余名の方々に参加していただきました。京のおばんざいや地ビールがメインの献立(費用は一食あたり 4 千円)を 3 月から準備した甲斐があり皆様に喜んでいただけたと思います。

以下は今後の課題です。なお、第 42 回大会から国際文献社の大会受付ヘルプデスクに業務委託ですが、今回の大会校運営の結果からは、その委託費用の支出は一般常識からは高すぎる面が少なからずあり、次年度は再考し、業務委託に際して、今後は、数社の競争入札にすべきと思われます。例えば、事前受付は当日より千円安く設定していましたが、国際文献社から大会校会計へは事前受付の手数料として一人当たり数百円が加算されていました(事前受付の意味がない)し、今回初のランチョンセミナーの弁当の希望欄を大会 HP の参加申し込み欄に追加をお願いしたところ、掲載に 3 万円かかり、また来年はなさそうだから、その取り消しに 3 万と計 6 万も請求されています。今回は、佛教大学からの補助はありますが、焼け石に水のような収支結果となりました。

今回、大会校としては、関係者に呼びかけ若手の新入会員のリクルートにも力を入れました。今後も演題は増えると思いますので、初日の RTD や一般演題の開始時刻を他学会のように午前中からにすれば、二日目の早朝からの開始時刻にも余裕が持てると思われました。

備考：〈今大会においてキャンセルされた演題〉[発表者名省略]

5月20日示説 P1-3 「他科受診について」

21日示説 P2-9 「人生の終焉に関わる患者の意思決定プロセス」

(第 43 回大会長 村岡 潔 [佛教大学社会福祉学部])

## 2. 第 44 回大会告知

第 44 回日本保健医療社会学会大会は、2017 年 5 月 19 日(土)・5 月 20 日(日)に、北海道北広島市の星槎道都大学にて開催されます。大会長は細田満和子先生(星槎大学)、大会事務局長は山本武志先生(札幌医科大学)です。大会テーマ等の詳細については、次号のニューズレターにてお知らせいたします。

(田代理事：研究活動担当)

## 3. 総会報告

総会議案書にもとづいて審議・承認されました。なお、議案書は大部となりますので、末尾に別添します。今回の総会では、2017 年度予算案に関し、30 周年記念事業費を一般会計から支出する①案と園田基金から支出する②案の 2 つの案が提案され、審議の結果、②案が承認されました。

(蘭理事・清水理事：前会長・前総務担当)

## 4. 園田賞報告

若手研究者の研究奨励を目的に 2006 年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞(2013 年度より「園田賞」)の 2016 年度受賞者は、選考委員会による審査結果の報告を踏まえ、理事会で審議の上、以下の通り決定され、2017 年度の学会大会の総会終了時に授賞式が行われました。



受賞者：野島那津子

受賞作：原著「診断のパラドックス—筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群及び線維筋痛症を患う人々における診断の効果と限界」(『保健医療社会学論集』第27巻2号、pp.77-87、2017年)

2016年度園田賞は、この年度に発行された本学会機関誌『保健医療社会学論集』(第27巻)に掲載された若手研究者による論文(総説、原著、研究ノート)を対象にして選考されました。

(中山理事：前研究活動担当)

## 5. 第1回理事会報告

日時：2017年5月20日(土) 10時00分～11時

会場：佛教大学 二条キャンパス 会場2(2階207)

出席者：蘭会長、清水理事、樫田理事<sup>\*</sup>、石川理事<sup>\*</sup>、進藤理事、田代理事<sup>\*</sup>、中山理事、西村理事<sup>\*</sup>、細田理事、朝倉理事<sup>\*\*</sup>、林理事<sup>\*\*</sup>、松繁理事<sup>\*\*</sup>、事務局 平野(記 国際文献社)

欠席者：伊藤理事<sup>\*</sup>、小澤理事<sup>\*\*</sup>、三井理事<sup>\*\*</sup>

※ <sup>\*</sup>は、2015-16期・2017-18期理事、<sup>\*\*</sup>は2017-18期理事を示す。

### 1) 第43回大会および総会についての確認(蘭)

蘭会長より大会の準備状況、評議員会・総会の進行や議事について説明と確認が行われた。特別号掲載の大会校住所の誤り等については、HPなどで周知が図られた。「論集」のアーカイブ化を中心とした30年記念事業費については、園田基金使用用途が若手支援のみに限定されているわけではないことを確認した上で園田基金から支出する予算案を理事会の提案として、評議員会・総会に諮ることとした。

### 2) 議事録、次号ニューズレターの今期理事会関連記事の会長／総務への一任について(蘭・清水)

今期理事の任期終了の為、今回の理事会議事録の確認は蘭会長と清水総務理事に一任することが承認された。また、次号ニューズレターの今期理事(2015-2016年度)関連の記事(今回の理事会報告、大会・総会報告)についても、蘭会長と清水総務理事に一任することが承認された。

### 3) 各担当の新旧担当者間の引継ぎについて確認

清水総務理事より資料添付次第の通り、引継ぎが行われた。運営マニュアルについては松繁次期総務理事へ引き継いだことが伝えられた。また、会費免除制度の継続期間について次期理事会に引き継ぐこととした。

4) 編集委員会報告 (檜田・石川)

檜田理事より、理事会後に新旧合同の編集委員会を開催し、その場で引き継ぎをすることが伝えられた。

7月発刊予定の28巻1号について、特集が掲載されるとの報告があった。

5) 定例研究会の報告(関東) (田代・中山・西村)

田代理事より報告事項は特にないこと、2017年度は小澤次期研究活動理事と企画することが伝えられた。

6) 定例研究会の報告(関西) (伊藤・進藤)

進藤理事より報告事項は特にないこと、2017年度も2016年度同様に年2回の開催を企画する予定であることが伝えられた。

7) 看護・ケア研究部会会計報告 (西村)

西村理事より資料添付次第の通り2016年度の会計報告があり、2016年度は定例会を3回開催し、関東定例研究会と合同で1回の公開企画を開催したことが伝えられた。

8) 渉外・国際交流活動の報告 (細田)

細田理事より資料添付次第の通り、ISAの申込期間が始まること、今年度と次年度大会における海外からの特別講演講師を招聘することの報告があった。

特別講演講師 Mike Saks氏は招待の為、大会参加費を無料とすることが確認された。

9) 入退会者の承認 (清水)

清水総務理事より新入会者14名(通常会員11名、共同発表会員3名)の承認依頼があり、承認された。また、会費免除者1名、退会者7名の報告があった。

10) その他

特になし。

以上

## 6. 看護・ケア研究部会報告

### 1) 総会の開催について

2017年5月21日(日)、第43回日本保健医療社会学会大会が開催された佛教大学二条キャンパスにて、看護・ケア研究部会の総会を開催しました。総会内容の概要は以下の通りであり、すべて承認されました。

#### (1) 2016年度活動報告

- ・2016年度入会者(9名)

- ・2016年度退会者(2名)
  - ・定例研究会を3回、開催したほか、関東部会との共催で公開企画「人類学の夢想とフィールドワークの経験」を開催した。
- (2) 2016年度会計報告
- (3) 2017年度活動計画案
- ・5月21日(日) 部会総会
  - ・7月22日(土) 第1回例会
  - ・9月23日(土・祝) 第2回例会
  - ・11月 第3回例会(関東部会定例会と共催予定)
  - ・1月20日(土) 第4回例会
  - ・3月10日(土) 第5回例会
- (4) 2017年度予算案

2) 第1回定例会の開催について

下記のように、第1回定例会を開催しますので、ご案内します。部会会員以外の方でもご参加いただけます。

日 時：7月22日(土) 13:30~17:00

場 所：首都大学東京荒川キャンパス 校舎棟 364 教室

発表者1：荻野貴美子さん(星槎大学)

発表テーマ：「医療と教育の協働—公立中学校における看護師から  
教員への医療的情報の提供と活用に関する事例研究—」

発表者2：吉田澄恵さん(千葉大学)

発表テーマ：「大学改革期における看護学分野の教育・研究の現状に関する一考察」

※開催場所の地図は以下をご覧ください。

<http://www.hs.tmu.ac.jp/access.html>

問い合わせ先 e-mail (事務局白瀬宛)：y.shirase\_at\_r.hit-u.ac.jp

※\_at\_は半角@に変更して下さい。

(朝倉理事：看護・ケア研究部会担当)

## 7. 渉外・国際交流活動報告

国際社会学会 (ISA: International Sociological Association) トロント大会 (2018年7月15-21日) の口頭発表の演題募集が始まっています。抄録締切は、2017年9月30日です。本学会員がオーガナイザーを務めるセッションもありますので、ご関心のある方はISA ウェブサイトで詳細をご確認のうえ、ぜひご応募ください。

<https://isaconf.confex.com/isaconf/wc2018/webprogrampreliminary/programs.html>

RC15 (Sociology of Health)

- ・ Anti-Globalization and Inequality in Migrants' Health (長崎大学 平野裕子)
- ・ Healthcare Governance in Sociological Context (星槎大学 細田満和子)
- ・ Languages of Victims: Toward Advocating Contemporary Social Sufferings  
(防衛医科大学校 金子雅彦)
- ・ Sociology of the Better Dying (九州看護福祉大学 竹中健)

RC49 (Mental Health and Illness)

- Social Determinants of Children and Adolescents Mental Health (東京学芸大学 朝倉隆司)  
(石川理事：国際交流・渉外担当)

8. 編集後記

- 本来は5月の学会後に発行する初めてのニューズレターとなります。前理事会と現理事会の活動の両方が紹介されており、役員交代と新体制での活動が進んでいる様子を紹介しました。引き続き、今期の理事会、委員会情報をお届けいたします。楽しみにご覧ください。
- 日本保健医療社会学会ニューズレターは第92号からはpdfファイルのメールマガジン形式で配信しています。もしメールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局（下記）まで御連絡ください。

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

(西村理事：広報担当)

発行：日本保健医療社会学会

編集：広報担当（西村ユミ）

学会事務局：

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp

TEL：03(5389)0237

日本保健医療社会学会ニューズレター (No. 106) : 別添

## 総会報告

議長に佐藤哲彦会員が選出され、議事が進行され、すべての議案が承認された。以下、要点を報告する。

なおこの議案書は、総会時に指摘のあった若干の文言の削除・修正を反映させたものである。

## 第1号議案:2016年度事業報告

### 1. 学会長より :

学会長の担当事項、および、理事の分担を超えた全体的事項について報告する。

#### 2017年度第43回大会の開催

5月20-21日に佛教大学二条キャンパスにて、村岡潔大会長、香西豊子事務局長のもと開催することになった。大会校の両先生方をはじめ企画委員、運営委員のみなさまに厚く御礼申し上げる。

#### 2018年度、2019年度の大会開催校について

2018年度の第44回大会開催を星槎大学(大会長・細田満和子会員)に、2019年度の第45回大会開催を自治医科大学(大会長・中村美鈴会員)に依頼し、内諾を得た。

#### 大会への理事会の関与のあり方について

本大会開催に際して、理事会側の業務分担として、研究活動委員会が大会準備にかかわった。また、第41回大会、第42回大会と同様に、参加費振込口座の開設・管理、一般演題報告・参加受付、大会ホームページの作成等の業務を国際文献社に委託した。「科研費審査システム改革2018」に対するパブリック・コメントを学会長名で提出するとともに、会員諸氏にもコメントを寄せてもらうよう依頼した。

### 2. 研究活動担当理事より(関東、関西、看護・ケア研究部会) :

#### (1) 定例会・研究部会について

定例研究会を関東で2回(内1回は看護・ケア研究部会との共同開催)、関西で2回開催した(詳細はホームページにて公開)。関東定例研究会と看護・ケア研究部会との共同開催は、役割分担等もスムーズにでき、研究会も盛況であった。

#### 学会大会企画について

2016年度の大会では、昨年度に引き続き、大会校の負担軽減のため、ラウンド・テーブル・ディスカッションの応募企画の承認、一般演題のセッションの割り振りと司会者の依頼等を行い、また申込手続きを国際文献社に依頼した。また、大会シンポジウムテーマと定例研究会テーマを連動させる企画を設定し、施設使用法・部屋の割り振り・スタッフ配置など大会運営に関して大会長と研究活動理事の協同を進めた。

今後の大会企画への研究活動理事の関与の範囲を明確にするため、上記の活動と合わせて、研究活動委員会を設置し、規約を策定した。

### 3. 学会誌編集担当理事より :

#### (2) 日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の開催

2016年度第1回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／日時：2016年4月10日(日)10:00～15:00／場所：国際文献社アカデミーセンター／審議・報告事項：2016年3月末締切投稿論文の査読者決定、『保健医療社会学論集』第27巻1号の編集について、第27巻2号の構成、献本、書評について。

2016年度第2回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／開催日時：2016年5月14日(土)14:45～15:45／開催場所：追手門学院大学／審議事項・報告事項：『保健医療社会学論集』第27巻1号の編集について、第27巻2号の編集について、書評対象書、『論集』バックナンバー販売等。

2016年度第3回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／開催日時：2016年10月15日(土)10:00～15:00／場所：国際文献社アカデミーセンター／審議・報告事項：2016年9月末締切投稿論文の査読者決定、『保健医療社会学論集』第27巻2号の編集について、第28巻1号と第28巻2号の構成(とりわけ、大会時特別講演者であるサックス先生原稿の翻訳・掲載予定について)、献本、書評について。

#### 『保健医療社会学論集』の刊行とWEBへの掲載

2016年8月 『保健医療社会学論集』第27巻1号の刊行。

2016年9月末 投稿論文締切 投稿論文・・・ 7本

2017年1月 『保健医療社会学論集』第27巻2号の刊行

2017年3月末 投稿論文締切 投稿論文・・・ 14本

本誌は、紙版刊行後1年半で、WEB版の無料公開に進んでいる。2015年度は、公開場所の移行に関わって、WEB公開の時期に、若干の遅れが生じたが、2016年度に入って正常化した。また、1巻から9巻までの『論集』もJ-Stageに掲載することになった。

#### 公正かつ透明な査読プロセスを安定的に運用するための編集委員会体制の堅持と審査期間短縮の試み等

2007-2008年度編集委員会から確立されてきた編集委員会の権限と責任の明確化、および、機能の限定化・明示化を堅持し、今後も公正かつ透明な査読プロセスの安定的運用につとめた。ただし、2015年度より、審査割れ時の自動的な処理が、査読期間の長期化に繋がっている面があることに鑑み、C判定+D判定の場合には、第3査読者への委託という展開以外に、編集委員会の審議と合意によって、C判定での継続査読や、D判定での審査終了という形に展開させ、審査プロセスの迅速化を図ることも可能なように、関連諸規程を整備し、WEB上に公開したが、その運用改善策も維持した。また、上記の「透明な査読プロセス」の確保のため、「査読ガイドライン」をWEB上に公開した。

#### 編集委員1名の退任について

本期の編集委員会は、総勢5名の体制で立ち上げていたが、ご本人から、ご退任のお申し出があったので、長江弘子委員については任期途中で退任することとなった。委員会の構成については、理事会承認事項であるため、この退任の最終決定は2016年12月開催の本学会理事会にて行われた。なお、残りの委員任期の期間が約5か月と短いため、後任補充は行わないこととなった。

#### 編集委員会主催 論文投稿支援企画の開催について

2016年10月16日に、東京大学医学部総合中央館において、「論文投稿支援ワークショップ

「10・16」を開催した。榎田委員長・石川副委員長・白井委員の3編集委員会委員とゲスト講師の齋藤圭介氏が各々講演とファシリテーターを担当し、13名がA・Bの2班にわかれて活動した。この活動の成果の一部は、『保健医療社会学論集』27巻2号に4本の記事として掲載されているが、なかでも、(石川ほか、2017)「査読コメントへの対応方針10箇条——投稿リテラシーを高めるために」は、前例をみない貴重な成果であると言えよう。

2017年3月25日に、大阪市内の大阪市立大学梅田キャンパス文化交流センターにおいて「論文投稿支援ワークショップ成果報告検討会」を開催した。榎田委員長と木下衆会員が登壇し、7名の参加者ではあったが、若手支援が査読者育成にも繋がり、学会全体の研究が活性化するという展望などが語られ、若手支援事業を編集委員会が行う意義が再確認できた。

なお、編集委員会主催の論文投稿支援企画は、本年度から、その若手支援的性格に鑑み、「園田基金」からの援助を受けて実施されている。

#### 4. 渉外・国際担当理事より：

##### 国際学会情報提供

国際社会学会 (ISA) 第3回社会学フォーラム (2016年7月10日から14日にウィーンで開催) に関する情報提供や参加報告を行った。国際社会学会 (ISA) 第19回世界大会 (2018年7月15日から21日にトロントで開催) に関する情報提供を行った。

East Asian Social Policy (2016年7月1日から2日にソウルで開催) に関する情報提供を適宜行った。

Asia Pacific Sociological Association (2016年9月24日、25日) の参加報告を行った。

##### 国際交流

国際社会学会 RC15 (Sociology of Health) と連絡を取り合い、情報提供をした。

##### 学会大会への海外研究者招聘

2016年の評議員会において、複数の会員から学会の国際化推進のご意見が出され、総会にて、次年度の学会には園田基金を原資に、海外からスピーカーを招聘することとなったため、実施のための諸調整を行った。特に、予算があっても限られているので、海外から日本への渡航費は先方もちで、滞在費・国内移動費を園田基金から出すという枠組みにし、2017年度と2018年度に関しては、予定を立てた。

2017年5月の学会に、Mike Saks氏 (Suffolk University, UK) を招聘。

2018年5月の学会に、Stephanie Short氏 (Sydney University, Australia) を招聘予定。

##### 社会学系コンソーシアム

社会学系コンソーシアム評議員会に出席し、シンポジウムに参加した。

#### 5. 学会奨励賞選考委員会より：

##### 園田賞選考

園田賞 (学会奨励賞) の選考結果 (候補論文1編) が報告され、理事会で承認された。今年度の対象論文は7本 (すべて原著) であった。

## 6. 総務担当理事より：

### 東日本大震災被災者に対する会費減免措置について

減免措置について、2015年度に初めて申請があり、理事会において承認した。今年度も審議の末、措置を継続することとした。総会において次年度からの中止が決議されるまでは継続する。

### ニューズレターの配信とホームページへの掲載

102号(2016/10/31)、103号(2016/1/16)、104号(2017年5月発行予定)の3号を発行し、会員むけMLにて配信を行い、ホームページへの掲載を行った。2015年度より、広報担当理事から総務担当理事に業務を移管したが、業務繁多となり通常総会後に発行する号が発行できなかった。次期からは分担の変更などが必要と思われる。

### ホームページ更新と広報用Twitterアカウントの開設

各担当理事と連携しつつ、内容の充実を図った。更新費用が超過とならないように、月末にまとめて更新を行った。学会30周年を念頭に過去の情報を集約しつつ、SNSやスマートフォンにも対応したサイトに更新予定である。昨年度に開設したtwitterアカウントでは、学会情報やJREC-INの求人情報なども自動配信している。

### ニューズレターバックナンバーのアーカイブ化について

1990年1月から2001年3月、および、それ以降の一部のニューズレターは未だに入手できておらず、会員に協力を求める必要がある。

### 会員情報の整備と個人情報の保護

いわゆる「マイナンバー法」の施行に伴い、業務委託先での対応状況を確認したが特に問題は生じなかった。特定個人情報保護規定、個人情報保護規定を策定し、個人情報の適切な取り扱いに留意した。

### 会員数の動向および新会員の確保

2017年3月末現在の会員数は、通常会員664名、共同発表会員14名、名誉会員10名(2016年3月時点は、順に651名、8名、10名)とほぼ横ばいできているが、相変わらず、やや若手がすくない傾向にある。

今後、少子化に伴う若手会員の減少が見込まれることから、若手会員向けの年会費減免に関する意見も寄せられていたが、学会の財政状況の安定の観点から、今年度はまずは論文作成支援などの試みを行った。年会費の減免については継続課題である。

第2号議案：2016年度決算・監査報告

日本保健医療社会学会2016年度決算書

2016年4月1日から2017年3月31日まで

一般会計

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
収入の部				支出の部			
会費収入	4,822,000	5,414,000	-592,000	印刷製本費	1,200,000	1,455,083	-255,083
学会誌刊行物売上	24,000	66,314	-42,314	郵送費	173,000	195,932	-22,932
広告収入(特別号)	30,000	22,500	7,500	交通費	640,000	453,970	186,030
受取利息	200	40	160	学会業務委託費	2,039,600	2,182,895	-143,295
雑収入	5,000	149,208	-144,208	【発送関連業務】	75,000	105,489	-30,489
				【事務局関連業務】	1,210,000	1,250,043	-40,043
				【編集関連業務】	595,000	662,998	-67,998
				【HP関連メンテナンス】	75,600	75,600	0
				【その他(資料保管代)】	84,000	88,765	-4,765
				選挙関係費	290,000	274,627	15,373
				消耗品費	60,000	59,639	361
				会議費	40,000	22,000	18,000
				大会・研究会・部会活動補助費	780,000	322,571	457,429
				社会学系コンソーシアム年会費	20,000	20,000	0
				その他(振込手数料等)	30,000	26,201	3,799
				予備費	350,000	49,410	300,590
当期収入合計	4,881,200	5,652,062	-770,862	当期支出合計	5,622,600	5,062,328	560,272
前期繰越額	4,961,176	4,961,176	0	次期繰越額	4,219,776	5,550,910	-1,331,134
収入合計	9,842,376	10,613,238	-770,862	支出合計	9,842,376	10,613,238	-770,862

園田基金

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
収入の部				支出の部			
				奨励賞賞金	50,000	50,000	0
				論文執筆支援研修会	50,000	28,074	21,926
				交通費	70,000	0	70,000
				消耗品費	10,000	276	9,724
				業務委託費	21,600	21,600	0
				雑費	1,000	2,952	-1,952
				予備費	0	0	0
当期収入合計	0	0	0	当期支出合計	202,600	102,902	99,698
前期繰越額	2,935,172	2,935,172	0	次期繰越額	2,732,572	2,832,270	-99,698
収入合計	2,935,172	2,935,172	0	支出合計	2,935,172	2,935,172	0

日本保健医療社会学会2016年度会計についての監査の結果、適正なものと認めます。

2017年 4月 10日 会計監査 山崎喜比古 印

2017年 4月 10日 会計監査 朝倉隆司 印

貸借対照表

2017年3月31日現在

日本保健医療社会学会

一般会計

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
普通預金	481,859	未払費用	600,699
郵便貯金	481,859	前受会費	307,000
郵便振替	5,979,251	預り金	2,501
流動資産合計	6,461,110	流動負債合計	910,200
		2.固定負債	
		固定負債合計	0
		負債合計	910,200
2.固定資産		III 正味財産の部	
固定資産合計	0	正味財産合計	5,550,910
資産合計	6,461,110	負債及び正味財産合計	6,461,110

貸借対照表

2017年3月31日現在

日本保健医療社会学会

園田基金

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
普通預金	2,832,270	流動負債合計	0
郵便貯金	2,832,270		
流動資産合計	2,832,270	2.固定負債	
		固定負債合計	0
		負債合計	0
2.固定資産		III 正味財産の部	
固定資産合計	0	正味財産合計	2,832,270
資産合計	2,832,270	負債及び正味財産合計	2,832,270

### 第3号議案：2017年度事業計画

#### 1. 学会長より：

学会長の担当事項、および、理事の分担を超えた全体的事項について提案する。

##### 第44回大会の開催

2018年度第44回大会を、大会長を細田満和子会員（星槎大学）として開催する。なお、大会会場は、北海道北広島市の星槎道都大学とする。そのための準備と支援を行う。

##### 2017年度の予算について

30周年記念の予算等を計上したが、引き続き、学会運営上、健全かつ堅固な財政構造の確立をめざし、収入と支出の両面にわたり、細心の注意を払う。

##### 学会・理事会全体の組織・運営

投票率をあげ、学会全体を反映した理事会構成になるような選挙制度改革や評議員制度改革など、学会の組織および運営のよりいっそうの健全化・盤石化をはかるための手立てを講ずる。

##### 理事会中心の大会運営の確立

大会引き受け側の負担を軽減する方策を講じる。そのために研究活動委員会が理事会と大会校との紐帯と

して有機的に機能するよう組織化する。また、大会関連支出に関して、大会会計と学会本体の会計との調整を吟味する。

##### 学会設立30周年記念企画について

2018年の学会設立30周年記念企画について具体的に検討し、実行するためのプロジェクトチームの組織

化や予算化を進める。

##### 2017年度予算について

引き続き、学会運営上、健全な水準の予備費（繰越金）の積み上げを維持することを目標に、収入と支出の両面にわたり、健全な財政構造の確立に努める。園田基金の用途については、園田賞以外の支出として、編集委員会主催の論文投稿支援セミナー開催補助費、および、特別講演講師招聘費用を計上する。

#### 2. 研究活動担当理事より（関東、関西、看護・ケア研究部会）：

##### 定例会・研究部会について

2016年度までと同じ方向での事業の継承・発展をはかる。関東定例研究会と看護・ケア部会との共同開催を行う予定である。

##### 園田賞（学会奨励賞）選考について

学会奨励賞選考に関する内規を引き継ぐ。選考委員の選出や奨励賞の選定は、従来通り理事会が行う。

##### 学会大会企画について

2016年度に規約に明記された委員会として正式に発足した研究活動委員会と、大会校との連携を通して企画を策定してゆく。2017年度では、大会校企画に際して、大会校から研究活

動委員会に参加する方針が確認されている。RTD および一般演題申請等の業務委託等を点検し充実を図る。また、その他の学会大会企画及び特に研究活動に関わる運営上必要な事項について、大会事務局と連携・協力して実施するとともに、研究活動委員会と大会校との業務分担の内容を検討してゆく。

### 3. 学会誌編集担当理事より：

日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の開催（一部実施済み）

2017年度第1回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／日時：2017年4月15日（土）10:00～15:00／場所：国際文献社アカデミーセンター／審議・報告事項：2017年3月末締切投稿論文の査読者決定、『論集』第28巻1号の編集について、第28巻2号掲載予定の大会特集の構成、献本、書評について。新委員会への引き継ぎ事項（「論文投稿支援会」等）について

2017年度第2回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／開催日時：2017年5月20日（土）14:30～16:30／開催場所：佛教大学／審議事項・報告事項：『保健医療社会学論集』第28巻1号と2号の編集について、第29巻1号の特集企画について、「書評用図書購入予算の運用」について、等。

2017年度第3回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／開催日時：未定／場所：未定／審議・報告事項：2017年9月末締切投稿論文の査読者決定、ほか。

『保健医療社会学論集』の刊行とWEB公開と「論文投稿支援会」

2017年7月 『保健医療社会学論集』第28巻1号の刊行。

2017年9月末 投稿論文締切

2018年1月 『保健医療社会学論集』第28巻2号の刊行

2018年3月末 投稿論文締切

期日未定 論文投稿支援会（場所未定）

公刊後18か月経過した『論集』については、J-STAGEでの公開を行う。

公正かつ透明な査読プロセスを安定的に運用するための編集委員会体制の堅持

2007-2008年度編集委員会から確立されてきた編集委員会の権限と責任の明確化、および、機能の限定化・明示化路線を堅持し、今後も公正かつ透明な査読プロセスの安定的運用につとめる。

編集委員会主催 論文投稿支援企画の開催方針について

2015-16年度編集委員会では、合計4回の「論文投稿支援会」を、編集委員会主催で行った。本学会では、査読者をお招きして開催する拡大編集委員会を開いていないが、「論文投稿支援会」には、査読経験者も来て下さっており、編集関係の各層が交流し、相互に「投稿リテラシー」と「査読リテラシー」を高める場ともなっている。このように編集委員会が「論文投稿支援会」を開催する意義は大きいようにおもわれるので、2017-18期においても、可能な限り、この活動を継続していきたい。

### 4. 渉外・国際担当理事より：

(1) 国際的な学会の情報提供を、継続して行っていく。

- (2) 国際社会学会 (ISA) 等と連携し、国際にかかわる情報提供を行っていく。
- (3) 社会学系コンソーシアム等の関連諸学会 (学会連合を含む) からの情報を会員に提供しつつ、学会間の横のつながりの強化を図っていく。

## 5. 総務担当理事より :

### 東日本大震災被災者に対する会費減免措置

減免措置については総会において次年度から中止することを決議するまでは継続する。同様の大地震の発生時には同様の措置の検討を行う。

### ニューズレターの発行及び会員へのメールでの情報発信

ニューズレターを年4回程度発行する。その記事構成、内容についても検討を行う。また、定例研究会や大会関連告知など、時機を得た情報発信をするため電子メールや twitter を用いた発信も適宜行なう。

### ホームページ更新およびアーカイブの充実

各担当理事と連携しつつ、会員からの要望も含め必要な更新を欠かさず、内容の充実を図る。新しいデザインのホームページの評判なども考慮し、適宜改良を加えていく必要がある。また学会誕生30周年との関係で、過去の学会活動情報記録の収集、「論集」の1-9巻の電子ジャーナル化などを進めていく。

### 会員情報の収集の活用、個人情報保護の推進

前期に新設した個人情報保護規定および特定個人情報保護規定を順守し、会員の個人情報等を的確に管理する体制を整え、会員に情報提供を呼びかける。またそれらの情報を活用して、今後の学会活動に活かす基礎資料を作成する。

### 学会費の減免等の対応について

学会財政状況にある程度めどがついた状況であり、今後の学会の方向性を踏まえつつ、収入等の乏しい会員への支援体制を検討する必要がある。

まず今後、少子化に伴う若手会員の減少が見込まれ、以前より要望のあった大学院生等の年会費の減免について継続して審議する。また、学会で活躍していただいた会員が定年を機に退会されるケースも近年少なくなき、退会された場合には名誉会員の対象とならないことなどから、定年により年金以外の収入がなくなったような状況の会員の処遇についても検討の余地がある。

## 第4号議案：2017年度予算①

日本保健医療社会学会2017年度予算書(案)  
自2017年4月1日 至2018年3月31日

## 一般会計

収入の部		支出の部	
	予算額		予算額
前期繰越金	5,550,910	印刷製本費	1,460,000
会費収入 (8,000円×561名、新会員9,000円×60名)	5,028,000	郵送費	193,000
学会誌刊行物売上	40,000	交通費	713,000
広告収入(特別号)	30,000	学会業務委託費	2,106,600
受取利息	50	発送関連業務	96,000
雑収入	5,000	事務局関連業務	1,250,000
		編集関連業務	612,000
		HP関連メンテナンス	75,600
		その他(資料保管代)	73,000
		選挙関係費	0
		消耗品費	60,000
		会議費	40,000
		大会・研究会・部会活動補助費	830,000
		社会学系コンソーシアム年会費	20,000
		その他(振り込み手数料等)	30,000
		30周年記念事業費	485,000
		予備費	350,000
		次期繰越金	4,366,360
合計	10,653,960	合計	10,653,960

日本保健医療社会学会2017年度予算書(案)  
自2017年4月1日 至2018年3月31日

## 園田基金

収入の部		支出の部	
	予算額		予算額
前期繰越金	2,832,270	奨励賞賞金	50,000
		論文執筆支援研修会	50,000
		特別講演講師招聘	100,000
		交通費	70,000
		消耗品費	10,000
		業務委託費	21,600
		その他(振り込み手数料等)	1,000
		予備費	0
		次期繰越金	2,529,670
合計	2,832,270	合計	2,832,270

予算案②

日本保健医療社会学会2017年度予算書(案)  
自2017年4月1日 至2018年3月31日

一般会計

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	5,550,910	印刷製本費	1,460,000
会費収入 (8,000円×561名、新会員9,000円×60名)	5,028,000	郵送費	193,000
学会誌刊行物売上	40,000	交通費	713,000
広告収入(特別号)	30,000	学会業務委託費	2,106,600
受取利息	50	発送関連業務	96,000
雑収入	5,000	事務局関連業務	1,250,000
		編集関連業務	612,000
		HP関連メンテナンス	75,600
		その他(資料保管代)	73,000
		選挙関係費	0
		消耗品費	60,000
		会議費	40,000
		大会・研究会・部会活動補助費	830,000
		社会学系コンソーシアム年会費	20,000
		その他(振り込み手数料等)	30,000
		予備費	350,000
		次期繰越金	4,851,360
合計	10,653,960	合計	10,653,960

日本保健医療社会学会2017年度予算書(案)  
自2017年4月1日 至2018年3月31日

園田基金

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	2,832,270	奨励賞賞金	50,000
		論文執筆支援研修会	50,000
		特別講演講師招聘	100,000
		交通費	70,000
		消耗品費	10,000
		業務委託費	21,600
		その他(振り込み手数料等)	1,000
		30周年記念事業費	485,000
		予備費	0
		次期繰越金	2,044,670
合計	2,832,270	合計	2,832,270

第5号議案：次期会長の推挙

規約第11条第4項「会長は理事会の議を経て、総会において推挙する。」に基づき、檜田美雄氏(神戸市看護大学)を推挙する。